

令和2年度「幼稚園 学校評価」結果

学校法人渋沢学園
いずみ幼稚園

令和2年度の幼稚園評価として教職員自己評価、学校関係者評価、保護者アンケートを実施いたしました。教職員一人ひとりが自己を見つめ直し、それぞれの評価結果について話し合うことで成果や今度の課題、改善の方法などを明らかにすることができました。この結果をもとに更なる教育活動の充実、環境整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

I 教育目標 『豊かな感性・たくましい心身・考える子』

1. 自然に触れ合い、命の尊さと優しい心を育む
2. 豊かな感性と健康でたくましい心身をつくる
3. 一人ひとりの個性を大切に良さを引き出す
4. 安全・生活・社会のルールを身につけさせる

II 今年度の重点目標

1. 「自然体験」

〈身体能力・思考力・見る力・想像力・表現力・開放感・感性・自己肯定感・社会性・意欲〉

◎積極的に戸外へ出掛けて様々な体験活動を行う

◎自然に触れる…遊びや表現活動に取り入れる

- 動植物を育てる
- 季節の変化への気付き

2. 「ふれあい交流」

〈挨拶（言葉）・人間関係・感情・思いやり・優しさ・社会のルール・役割・想像力・表現力〉

◎元気な声で挨拶をする

- 異年齢交流…たて割り保育、表現遊び
- 地域の方とのふれあい
- 親子交流
- 動物とのふれあい
- 公共の施設を利用し、その場での約束やルールを学ぶ

3. 「食育」〈感謝する心・よく食べる・食事マナー・愛情・体験・気付き〉

◎食事マナー…箸の使い方、姿勢等

◎畑作り…育てる喜び、食べる意欲

- 週に1度の愛情弁当
- 食品とその働きについて興味を持つ

Ⅲ 評価項目と取組状況

	評価項目	取組状況
幼稚園管理運営	幼稚園の教育目標と重点目標の周知	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育の目標を具体的な言葉で表し、園が目指す幼児の姿を明確にして保護者に周知するよう努めている。(園ホールに掲示、園通信、地域回覧の園だより、HP、PTA 総会資料等) ・全職員で共通理解を図りながら、一人ひとりの成長を大切にし、クラス経営の充実を図っている。
	危機管理体制等の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアルの中で各職員の役割を明確にし、周知している。 ・地震、火災の避難訓練や防犯訓練等を定期的実施。 ・大災害に備えた「緊急連絡システムを利用した一斉お迎え訓練」「防災献立」を実施。 ・日常の遊具、施設の安全確認や必要に応じて補修を行っている。 ・敷地内への侵入対策、施錠の徹底。 ・新型コロナウイルス感染症対策として登園時の健康調査、検温、消毒、マスクの着用等の徹底や、密回避のための登降園時や保育、行事等の工夫をしている。
	家庭、地域、関係機関への情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・通信やクラスだよりの発行、園だよりの地域回覧、HP、有線、ケーブルテレビ等を利用して情報を発信し、家庭や地域社会への幼稚園教育に対する理解を深める取組みをしている。 ・個別懇談の他、特に支援の必要のある幼児や保護者に対しては園内の支援体制を整え、家庭との連携を十分にとる。個々の状況によっては専門機関に繋げ、連携を取りながら子どもの育ちを見ていくことが出来た。 ・毎月の教育内容、指導内容をお便りで保護者に伝えている。 ・未就園児教室を開設したり、個別ではあるが園見学を行い、幼稚園を知ってもらったりする機会を設けた。 ・保育参観や懇談会は、なるべく参加しやすい日程を密にならないよう複数日設定し、定期的実施した。 ・保護者アンケートを実施し幅広い声や意見を把握する事ができ、結果を園だより等の書面で公開し、今後の教育活動の参考とすることができた。

教育活動	教育課程の編成・実施の考え方についての教職員間の共通理解	<ul style="list-style-type: none"> ・週1回の職員会議や日々の打ち合わせ等で教育課程の編成（指導計画）や実施法（年案・月案・週案）について話し合い、教職員間の共通理解を図るために努力している。 ・園が定めている教育課程の健康・人間関係・環境・言葉・表現について達成する目標をもち、編成するよう努めている。 ・卒園までに身に付けたい10の目標について年間カリキュラムの見直しを行い、保育の中で生かすようにしている。
	発達段階に則した適切な幼児理解・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の発達段階に応じた適切な指導・援助に努めている。 ・個別懇談の他、特に支援の必要のある幼児や保護者に対しては園内の支援体制を整え、家庭との連携を十分にとる。個々の状況によっては専門機関に繋げ、連携を取りながら子どもの育ちを見ていくことが出来た。 ・加配教諭の配置。 ・専門支援員の観察・指導を受け、実践している。 ・一人一人について教職員の話し合いを密に行ない、情報の共有に努め学年ごとのつながりを意識して保育に取り組んでいる。 ・自主的・主体的に学ぶ環境づくりをするよう努めている。 ・身近な自然に触れ合ったり健康な体をつくることができるように園外保育や散歩等を積極的に行っている。 ・野菜の栽培を通して感謝や喜び、気付き等の食育を大切にしながら、年齢に応じた食事マナーに気付くきっかけ作りをしている。
	幼稚園と小中学校との円滑な連携	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の教育内容について理解したり園児の様子を知ってもらう為に、幼保小中連絡会に参加。 ・必要に応じて、小学校と連携を取りながら園児が安心して入学できるようサポートを行っている。（校内見学、授業体験等）
	教員の資質向上研究・研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研究保育の実施により一人ひとり指導力が向上し、保育の見る目も養うことができた。 ・幅広い支援の知識を得るために外部専門員を積極的に招へいし、教職員の資質向上に役立てている。

IV 総合評価

【総合評価】

- ・今年新型コロナウイルス感染症予防の為に地域との交流や多くの行事、福祉施設、学校、図書館等の公共の場での交流が中止せざるを得なくなり、子ども達にとって貴重な経験ができなかった。
- ・コロナ禍の登園自粛期間中のインターネットを使った動画配信や感染を防ぐための日常や行事の工夫など、職員間の連携が更に深まり全員で園児一人一人の見取りを行った。
- ・保護者の評価については概ね高い評価をいただいたが、就業の有無や価値観の相違により様々な意見があります。それぞれの意見を受け止めたうえでより良い保育環境を目指したいと思う。

V 今後取り組むべき課題

- ・施設の防犯対策を含め、園舎の老朽化に伴う安全管理と教育環境の整備の更なる見直しと修理改善を行っていく。
- ・幼児一人ひとりを理解し、更に幅広い支援の知識を高め、教職員全体の資質向上を図っていく。
- ・『保護者との連携』を大切にし、意思疎通ができるように更なる工夫をし、信頼関係の向上に努める。
- ・価値観の多様化により、参観、行事等に対する意見が両極端に分かれる場合もあるが、各家庭の意見を謙虚に受け止め、適切な対処ができるよう努力していきたい。
- ・コロナ禍の中での地域との新たな交流方法、保育行事等を更に工夫していきたい。

VI 学校関係者の評価

- ・コロナ禍のため、感染症対策に留意しながら沢山の行事に取り組んできた先生方のご苦労が幼稚園だよりからよく伝わってきますが、接する機会がなかったため評価できないことが多かった。
- ・園だよりや有線放送でしか情報を得られなくて申し訳ありません。一日も早い日常生活や通常の園生活を願っています。
- ・園児理解について先生によって差がある様だ。現在の子どもに合った新しい教育を年輩の先生方も積極的に学び柔軟に対応することが今とても求められていることだと思う。
- ・今年度はコロナ禍で大変な一年だったと思います。目に見えないマスクの徹底や消毒、うがい手洗いの健康など職員の全員のチームワークに感謝します。

VII 財務状況

公認会計士監査により、適正であると認められている。